

# 令和7年度 山梨県果樹試験場試験研究課題評価結果

## 1 評価委員名

伊東 明子 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
果樹茶業研究部門 研究推進部長)

武藤 雅美 (山梨県果樹園芸会 会長)

山口 正己 (学識経験者 元東京農業大学農学部 客員教授)

奥田 徹 (山梨大学 理事、副学長)

手塚 英男 (南アルプス市農業協同組合 営農指導部次長)

## 2 評価実施日

第1回課題評価会議 (事前・中間：書面開催) 令和7年8月  
第2回課題評価会議 (中間・事後：通常開催) 令和8年1月23日

## 3 評価課題

### (1) 事前評価課題

- ア) 大課題名：醸造用ブドウ品種・系統の選抜 (R2～)  
小課題名：マイクロスケール醸造を取り入れた醸造用ブドウの選抜期間の短縮  
(成長戦略研究 R8～10)
- イ) 大課題名：核果類新品種の育成 (S63～)  
小課題名：スモモ実生選抜の効率化を目指したデータベースシステムの開発  
(成長戦略研究 R8～10)
- ウ) 大課題名：ブドウ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S59～)  
小課題名：ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第7次) (R8～12)
- エ) 大課題名：醸造用ブドウの高付加価値・安定生産技術の開発 (R8～17)  
小課題名：1 温暖化に対応した栽培技術および高品質化技術の確立 (R8～17)  
小課題名：2 優良品種選抜と栽培特性の把握 (R8～17)  
小課題名：3 有機栽培の検討 (R8～17)
- オ) 大課題名：核果類の優良選抜と栽培技術の確立 (S56～)  
小課題名：核果類優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第1次)
- カ) 大課題名：モモの新たな窒素施肥基準および施肥技術の開発  
(成長戦略研究 R8～12)  
小課題名：1 可給態窒素を指標とした窒素施肥基準の作成 (R8～10)  
小課題名：2 省力・効果的な有機物資材および施肥方法の検討 (R8～12)

### (2) 中間評価課題

- ア) 大課題名：醸造用ブドウ新品種の育成 (S25～)  
小課題名：1 耐病性を有する醸造用品種の育成 (H12～)  
小課題名：2 ワイン品質に優れた醸造用品種の育成 (H12～)  
※評価対象期間 R5～7
- イ) 大課題名：醸造用ブドウ品種・系統の選抜 (R2～)  
小課題名：1 導入主要品種系統の特性調査 (H12～)  
※評価対象期間 R5～7

ウ) 大課題名：県オリジナルブドウ「サンシャインレッド」の安定生産技術の確立  
(成長戦略研究 R6～8)

小課題名：1 短梢剪定栽培技術の確立  
小課題名：2 安定的な良着色栽培技術の確立

※評価対象期間 R6～7

エ) 大課題名：スモモ及びオウトウの優良品種選抜と栽培技術の確立 (R2～)

小課題名：1 スモモ、オウトウの優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第7次)  
(H12～)

※評価対象期間 R5～7

オ) 大課題名：スモモの低樹高・省力化樹形の確立 (成長戦略研究 R5～9)

小課題名：1 簡易棚を用いた一文字仕立ての検討

※評価対象期間 R5～6

### (3) 事後評価

ア) 大課題名：醸造用ブドウ品種・系統の選抜 (R2～)

小課題名：1 山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造品種の選抜  
～ワイン特性の解明  
(成長戦略研究 R5～7)

イ) 大課題名：ブドウ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S59～)

小課題名：1 ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第6次) (R3～7)

ウ) 大課題名：データを活用した「シャインマスカット」の多収・高品質安定生産技術の  
確立～(成長戦略研究 R4～6)

小課題名：1 加温栽培における安定生産技術の確立 (R4～6)

小課題名：2 露地栽培における高品質・多収技術の確立 (R4～6)

エ) 大課題名：モモ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S59～)

小課題名：1 モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第6次) (R3～7)

オ) 大課題名：醸造用ブドウの高品質・安定生産技術の確立 (県単独研究 H28～R7)

小課題名：1 「甲州」の安定生産技術の確立 (H28～R7)

小課題名：2 欧州系品種の高品質・安定生産技術の確立 (H28～R7)

小課題名：3 醸造用ブドウにおける減農薬栽培および有機栽培の検討 (R6～7)

カ) 大課題名：ブドウ・モモの新しい窒素施肥基準の作成 (成長戦略研究 R5～7)

小課題名：1 ブドウ園の可給態窒素を考慮した窒素施肥基準の作成 (R5～7)

小課題名：2 モモ園の可給態窒素含量の実態把握 (R5～7)

## 4 具体的な評価点、評価所見

(評価点の目安)

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

## 事前評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	マイクロスケール醸造を取り入れた醸造用ブドウの選抜期間の短縮	
研究期間	令和8年度～令和10年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の新規性	3.6
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.4
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.0
	総合評点	3.5
[評価所見]		
<p>計画は妥当で、想定通りの成果が得られれば、将来にわたり醸造用ブドウの育種の加速化が可能になると考えられる。収穫適期判定の果粒サンプリング量は、十分な信頼性の担保とのバランスを考慮して決定いただきたい。</p> <p>育種の効率が向上し、効率的である。</p> <p>日本のように国土が狭い中で実施する上で、小規模で説得力のあるデータを出すことは重要であると考え。県としても十分な知見・技術を持つべきである。</p> <p>醸造用ブドウ育種効率化のための意欲的な課題であると思う。実生の仕立て法、栽植密度、台木の影響等検討すべき課題も多いが、研究の着実な進展を期待する。</p> <p>気象変動の激しい中、県内産地にあった醸造用ブドウの選抜に向けた取り組みとして進めてもらいたい。</p>		

## 事前評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	醸造用ブドウの高付加価値・安定生産技術の開発	
研究期間	令和8年度～令和17年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.6
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.0
	総合評点	3.3
[評価所見]		
<p>温暖化による果樹生産への悪影響が深刻化する中、将来にわたる山梨県産醸造用ブドウの安定生産を確立するための取組として評価する。</p> <p>どうやって高付加価値化するか、何をもちいて安定生産というか、などが重要だと思う。内容については、ワイン産地確立推進計画後に再度精査をお願いしたい。</p> <p>温暖化対応では想定外の問題が発生することも多く、骨の折れる課題である。有機栽培についても、日本の気象条件では解決すべき課題が山積しているが、着実な研究の進展を期待する。</p> <p>気象条件の変化に合わせた研究や、有機栽培の実証など、県産ワインのブランドを高め確保するためにも計画通り進めてもらいたい。</p>		

## 事前評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第7次)	
研究期間	令和8年度 ~ 令和12年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.8
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.0
	総合評点	3.4
[評価所見]		
<p>「皮ごと食べられる」の形質は、年次変動や栽培方法や技術の巧拙によっても評価(結果)が異なることが考えられるため、いろいろな視点からの評価を期待します。</p> <p>生産者として新品種の情報はありがたい。</p> <p>方向性は明確で、問題は感じない。しかし、どれほどの数の農家が期待しているのか、経済効果に対するCPなどは、考えておく必要がある。</p> <p>山梨県における適応性を判断することは、果樹栽培の発展に不可欠の課題であり、現場のニーズに応えるものである。ブドウ栽培の基礎となる課題の一つであり、着実な進展を期待します。</p> <p>消費者嗜好に合わせた皮ごと食べられる着色品種の開発要望と、品種選抜する上での品質・特性把握など、生産者の求める研究である。</p>		

## 事前評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	醸造用ブドウの高付加価値・安定生産技術の開発	
研究期間	令和8年度～令和17年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.6
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.0
	総合評点	3.3
[評価所見]		
<p>温暖化による果樹生産への悪影響が深刻化する中、将来にわたる山梨県産醸造用ブドウの安定生産を確立するための取組として評価する。</p> <p>どうやって高付加価値化するか、何をもちいて安定生産というか、などが重要だと思う。内容については、ワイン産地確立推進計画後に再度精査をお願いしたい。</p> <p>温暖化対応では想定外の問題が発生することも多く、骨の折れる課題である。有機栽培についても、日本の気象条件では解決すべき課題が山積しているが、着実な研究の進展を期待する。</p> <p>気象条件の変化に合わせた研究や、有機栽培の実証など、県産ワインのブランドを高め確保するためにも計画通り進めてもらいたい。</p>		

## 事前評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	核果類優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第1次)	
研究期間	令和8年度 ~ 令和12年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.4
2	研究内容の新規性	3.0
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.0
	総合評点	3.1
[評価所見]		
<p>温暖化による果樹生産への悪影響や社会情勢を踏まえ、将来にわたる安定的な山梨県における核果類生産を確立するための取組として評価する。</p> <p>核果類などが現在の県内農業にとって重要なことは理解できるが、柑橘類、オリーブなどの他品目についても産地化にむけデータ収集することも必要と考える。</p> <p>核果類栽培の基礎的な研究課題であり、着実な進展を期待する。迅速に新品種を取り上げることが望ましく、そのための情報収集も重要である。</p> <p>民間育成品種も含め有望品種の特性を明確にし、栽培者が品種選択する際の参考となるようデータを取りまとめていただきたい。</p>		

## 事前評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	モモの新たな窒素施肥基準および施肥技術の開発	
研究期間	令和8年度～令和12年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	3.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.6
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.2
	総合評点	3.7
[評価所見]		
<p>果樹の施肥技術の開発は生産コスト・環境負荷の両方の観点から重要な取組。少量の施肥で体系化できるよう、計画を進めていただきたい。</p> <p>現実的な課題設定で良い。やるべき課題と考える。コンパクトな課題であり、その分、やることが明確である。</p> <p>生産者の期待が大きく、モモ栽培管理技術の向上に大きく寄与する課題であると思われる。着実な課題の遂行を望む。</p> <p>現場での施肥技術としては革新的な成果となり、優良作物生産や肥料に係るコストなどの見直しが可能となる。</p>		

## 中間評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	耐病性を有する醸造用品種の育成 ワイン品質に優れた醸造用品種の育成	
研究期間	平成12年度～	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.4
[評価所見]		
<p>本課題は順調に進行しており、引き続き着実に計画を進めることで目標が達成できると考えられる。耐病性育種は非常に重要な課題であり、課題設定は適切である。べと病以外の病害についても引き続き情報収集に努めていただきたい。</p> <p>耐病性と高品質の両立する育種をするべきだと思う。ワインの品質を第一に進めてもらいたい。</p> <p>精力的に進めており、評価ができる。遺伝子の利用なども良い方向性と感じる。良い品種も出来ている。Floreal、Voltisなども導入し、これらを超える耐病性を証明することも重要ではないかと考える。目標達成について問題はないが、品種が使われなければ努力は無駄になる。酒造組合の期待度も知りたい。</p> <p>本課題は計画を上回って進捗しており目標達成の可能性は高い。品種育成の効果を高めるため、他の主要病害についても耐病性付与を強化していただきたい。</p> <p>本課題は年次選抜も進んでおり、有望個体の選抜の方向性も計画通り進められている。気象条件に適した醸造品種の育成に期待する。</p>		

## 中間評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	導入主要品種系統の特性調査	
研究期間	平成12年度～	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.6
[評価所見]		
<p>適応性の評価が進んでいる。栽培性等に大きな欠点がある品種は早めに決着をつけることも必要。近年、気象が従来から大きく異なっている。既存品種も評価し、新しい品種と比較することも重要である。</p> <p>ワイン品質向上にとっても有益な研究だと思われる。系統選抜された苗木が1日も早く現場に植えられるようにしていただきたい。</p> <p>導入品種の特性調査はよくやっている。温暖化対策は重要。耐病性も含めた評価を同時にやらないと利用にたどり着けないと感じる。主要品種である甲州、MBAとの比較も重要である。</p> <p>国内外の優良品種導入は産地維持のために不可欠な課題である。計画を上回る進捗を示し、目標の達成が可能であると考え。長期的に継続して実施され多くのデータを示してきた課題であり、今後も着実な課題遂行を期待する。</p> <p>メーカーの要望も踏まえ、気象条件を考慮した研究計画が進められている。</p>		

## 中間評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	県オリジナルブドウ「サンシャインレッド」の安定生産技術の確立	
研究期間	令和6年度～令和8年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.8
[評価所見]		
<p>いろいろな取組により「サンシャインレッド」の高品質・安定生産技術の確立が進められている。費用対効果を十分に検討し、現場への導入を進めていただきたい。</p> <p>山梨を代表する品種になるものと思われるので、着色向上の技術の確立が急務である。</p> <p>良い結果が得られており進捗には問題ない。今後の主要品種となるため早めに具体的な栽培法を提示してほしい。LEDの実験も重要であり、大変興味深いですが、こちらは「サンシャインレッド」への注力が重要であると思う。</p> <p>計画を上回る進捗を示している。今後さらにデータが蓄積されることで、適正な栽培管理技術の確立が可能であると思われる。検討項目が多く、解析が難しい点もあると思うが、効果の安定した技術確立を期待する。</p> <p>短梢栽培での技術確立は、栽培形態が広がり栽培面積の増加が予想される。着色技術も研究計画に期待したい。</p>		

## 中間評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	スモモ・オウトウの優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第7次)	
研究期間	令和8年度 ~ 令和12年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.4
[評価所見]		
<p>スモモについて、適応性評価が順調に進められている。またオウトウでも、適応性評価に加え、台木の評価も行われている。現場で必要な取り組みであり、継続することが重要と考える。</p> <p>農家が栽培していない品種の情報が得られて、今後の品種構成に生かすことができる。温暖化に対応する技術を研究してもらいたい。</p> <p>研究としては計画通りと感じる。農家との連携により、さらに重要な課題の抽出に尽力されたい。</p> <p>計画通り進行していると評価する。核果類においても温暖化の影響と思われる結実不良や樹上での軟熟などが発生している。これらへの取り組みも期待する。</p> <p>選定する優良系統品種の選択や技術確立など目標に向けて進められている。新たな品種の導入に向けて進めてもらいたい。</p>		

## 中間評価報告書

令和7年9月8日(月)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	スモモの低樹高・省力化樹形の確立	
研究期間	令和5年度～令和9年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	3.2
[評価所見]		
<p>着実な取り組みが進められている。省力性や品質は複数年度で評価する必要がある、引き続き確認を進めていただきたい。普及に向け、現場が取り組みやすい技術の開発や、成果の発信にも取り組んでいただきたい。</p> <p>生産者の高齢化や農地の減少に対しても効果的だと思う。農家への具体的な指導が早まることを期待する。</p> <p>果樹は実験計画が難しいが、比較可能な計画を立てれば有益な情報になると思う。同じ木での年度比較、基部からの距離による性質の違いなど、工夫していただきたい。新規就農者への対応は重要である。</p> <p>年次反復が少なく現時点で両仕立ての優位性は不明であるが、今後データを蓄積することで、仕立てごとの省力性や果実特性が明らかにになるものと期待される。</p> <p>スモモでは結実の不安定さが問題となるが、今後計画通り進めば目標達成は妥当である。単価の低いスモモでは、10aあたりの収量がどこまで伸びるかが課題となり、普及性も左右する。</p>		

令和8年1月23日

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造品種の選抜 ～ワイン特性の解明～	
研究期間	令和5年度 ～ 令和7年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.6
<p>山梨県で新たに導入すべき欧州系醸造用品種を評価し醸造特性も明らかにした。今後山梨県での醸造用ブドウの安定生産、新たなブランド価値の創出に寄与する着実な成果が創出されたと評価する。</p> <p>甲州種とは異なるタイプの白ワイン品種と高温であっても着色に優れる赤ワイン品種の選抜は、ワイン県山梨の未来に期待できる。</p> <p>新規品種の必要性は理解できるが、県としてのブランド戦略が重要である。ワインセンターとの課題の摺り合わせとともに、統計処理、香りに関する測定方法、耐病性の確認もお願いしたい。</p> <p>温暖化対策が喫緊の課題となる中、海外からの導入品種の栽培性、果実特性、ワイン品質が検討され、成果情報等を通じて生産者にその知見が伝達された。課題の目標は十分に達成されていると評価される。</p> <p>県内の産地となる、標高300m以上の産地の気象条件に適した、品種の特性解明により、優良系統品種の普及に努めてもらいたい。この結果を、成果として終わらせるのではなく、ブドウの増殖から普及までを進めてもらいたい。</p>		

令和8年1月23日

研究種別	県単独課題	
研究課題名	ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立（第6次）	
研究期間	令和3年度 ～ 令和7年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.2
<p>今後も引き続き新品種に関する情報収集に努めてもらいたい。また、県オリジナル品種については、県ブランドの確立に向けた継続的な取り組みが進められることを期待する。</p> <p>山梨県において重要な試験である。多くの品種があり大変だと思うが、様々な気象での結果が欲しい。アントシアニンについては、土壌水分や標高なども重要である。山梨県にとってブドウは重要であり、人的資源や経済的支援を使って迅速な結果に期待する。</p> <p>いずれの品種も一長一短があり、普及の際の問題点が明らかにされている。また、山梨県育成品種については普及のための指針が得られている。新品種の特性把握と山梨県への適応性の判定のために幅広く検討が行われており、課題の目標を十分に達成していると評価する。</p> <p>優良系統の選抜で、年々温暖化の影響が見られていると感じる。黒系ブドウでは想定内の結果か。赤系の県オリジナル品種「サンシャインレッド」では、栽培技術が確立され、高温や日焼け対策など方向性が出た。普及に努めていただきたい。</p>		

令和8年1月23日

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	データを活用した「シャインマスカット」の多収・高品質安定生産技術の確立	
研究期間	令和4年度 ～ 令和6年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.6
<p>現場で利用可能な多収技術を開発し、その組み合わせで2.8t/10aの収量を達成したことは大変貴重な成果と考える。引き続き年次変動や安定性の評価をお願いしたい。多収や品質向上の要因解明を着実に行っており、今後施設栽培等でデータに基づく環境制御栽培に取り組む上での基礎的知見が集積できたと考える。</p> <p>露地、加温栽培ともに収量増は生産者にとって喜ばしいことである。多収による品質低下がないように栽培技術を正確に指導者に伝えてもらいたい。養分の転流試験は非常に生産者にはためになる。</p> <p>基礎的だが良い成果が得られていると思う。土壌水分や複合的な要因解析、転流については糖、アミノ酸の分析、少し長期的な分析にも期待する。光合成は棚と垣根で全く異なるかもしれない。今後の進展が望まれる。</p> <p>露地栽培では、今後の技術開発の基礎となる知見も得られている。さらに、施設栽培においては、環境制御技術の導入など、意欲的な試みが行われている。このように、本課題による成果は多岐にわたり、今後の技術開発に有用と思われる知見も得られていることなど高く評価される。</p> <p>施設栽培で問題となっている生理障害の対策として原因究明と技術の確立は、研究の成果が見られており、今後の普及が期待される。各農務事務所やJAの協力が不可欠であり、末端までの指導を急ぎたい。</p>		

令和8年1月23日

研究種別	県単独課題	
研究課題名	モモ優良品種選抜と栽培技術の確立	
研究期間	令和3年度 ~ 令和7年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.2
<p>導入候補となる新品種については、現場に下ろせる情報とするために、引き続き特性の確認をお願いしたい。また、「夢桃香」「さくひめ」については、それぞれの特性を活かした栽培・利用方法を模索いただきたい。</p> <p>全体として概ね目標とした研究は行われている。一方で結果がどのように利用され、費用対効果としての検証が欲しい。植物は個体差が大きいため、統計処理は必須であると思う。</p> <p>今回検討した新品種について、山梨県内での栽培の優位性は確認されなかったとされているが、生産者への情報提供は産地振興にとって不可欠であり、本課題の目的は達成されたと評価される。また、施設における加温栽培についても有効な情報を提供したと評価される。</p> <p>生産者(栽培者)の品種選択においては、有望視されている県外品種の特性や適応性などの明確化と山梨県オリジナル品種「夢桃香」の果実特性など施設での試験など成果が出ている。台木については、増殖可能なその他の台木も含め、改めて検討をお願いしたい。</p>		

令和8年1月23日

研究種別	県単独課題	
研究課題名	醸造用ブドウの高品質・安定生産技術の確立	
研究期間	平成28年度 ～ 令和7年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.4
<p>小課題1では「甲州」の安定生産技術の開発に、小課題2では欧州系品種の省力栽培法の開発にバランス良く取り組み、現場に役立つ成果が創出された。また甲州・欧州系ブドウについて品質と気象要因との解明など基礎的知見の集積においても今後につながる成果を得た。次年度からの研究課題で積み残された課題に取り組み、研究を進めていただきたい。</p> <p>素晴らしい成果が得られている。ブドウ栽培において考えるべき課題が広く取り上げられている。一方で収量や糖、アントシアニンなどによる評価になっており、高品質の考え方について議論・見直しが必要ではないかと考える。</p> <p>「甲州」の垣根仕立ては収量が棚仕立てに比べて低いことが示され、その改善法として台木「グローール」が有効であることが明らかにされた。「メルロ」では、新梢に対する摘心長と果実品質の関係を明らかにした。また、簡易雨よけやカサかけ等の病害軽減効果も確認した。本課題は当初の目標を十分に達成していると評価された。</p> <p>醸造用ブドウでの適正台木の検討と整枝剪定の検討を目標としての研究成果はあげられている。ただ、一般生産者では、既存の平棚を利用した長梢仕立てが一般的であり、垣根を用意する園は少ない。欧州系品種での台木試験はグローールと101-14だが、対象となる先が限定されているので、普及は難しくなる。</p>		

令和8年1月23日

研究種別	成長戦略課題	
研究課題名	ブドウ・モモの新しい窒素施肥基準の作成	
研究期間	令和5年度 ～ 令和7年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.2
<p>ブドウ・モモ栽培における窒素施肥低減に向けて、生育データに基づく施肥基準を設定するとともに、園地ごとの施肥量の検討に役立つ診断技術を構築した。今後、現地での実装が期待できる。また、将来的に樹種の拡大・横展開の検討、及び施肥時期や施肥方法の具体的工夫まで取り組まれることを期待する。</p> <p>生産者にはもう少しわかりやすい説明をお願いしたい。</p> <p>重要な課題であり果実品質との関係も気になる。良い成果が出ており、今後の進展に期待する。シャインマスカットと巨峰の果粒重の回帰方法が異なるのは気になった。ワイン用ブドウでは窒素不足は香りが減るとの論文もあるので、品質との関係は重要である。野菜などとの研究の連携も欲しい。</p> <p>可給態窒素量の実態を把握するとともに、施肥窒素との樹体への吸収割合を明らかにしたことは画期的な成果であると評価される。また、こうした結果をもとに作成したブドウ園の施肥基準は施肥の効率化にとって極めて有効であると期待される。このように本課題は目標を上回る成果を挙げつつあり、高く評価される。</p> <p>可給態窒素の簡易診断ができるようになり、土質に関係なく今まで統一されてきた施肥基準が変わることは研究の成果であり計画の通り達成できている。新たな施肥基準の作成が生産者への普及の第一歩となり、農務事務所やJAなどの指導機関による生産者への周知を望む。</p>		